

村山先生、

議事録 221 拝読しました。私の文章に対する批判の内容それ自体はよく理解できます。

しかし、文章とは目的に応じて書かれるもので、道案内を求める文章に関連する道路の歴史を長々述べることは趣旨に反するでしょう。

何を目的で『商社マン転じて大学教員となったか』を書くか、ということです。私は、経緯のみを与えられた字数の範囲で書きました。

もし、(1) 家庭環境が私の道德感に与えた影響、(2) 商社とは何か、商社無用論の是非、(3) 今の商社と私が勤務していたころの商社との違い、(4) アメリカの量刑ガイドラインと現在の商社活動との関係、等々について書くとなると量的に膨大となりますし、相当の準備期間をかけて事実関係を明らかにすべく多くの資料に当たらねばなりません。このようことまで書くのであれば、字数は相当に増えますし、少なくとも一年の準備期間を要しますが、それでもよろしいのでしょうか。それから「カルテルに関する部分は独立させる方がよい」には私も全く同感です。「カルテル」の部分は、木に竹を継ぐような気持ちで書いていました。書物の organizer としての村山先生のコメントをお聞かせください。

古山英二